

マークスが朝のミーティングで吠える。「話聴けよ!!! どうして僕の話はいつも途中なんだよ~!!!」等々。マークスが言い切らなかったのに、宇宙人話が盛り上がりすぎて次々に話したい人がいて、どんどん話が進んでしまったから。「今日は互いに全部出そう。」覚悟を決めてみんなに伝える。大きい声で言われるとびっくりするの、聴きたいと思っているよ、マークスも聞こえる声で話してほしい、マークスにこんな気持ちにさせたことは僕たちにも何かあったのではないかな・等々、まっすぐにでも丁寧にみんなが伝える。「悲しかったんだよね、ひとりぼっちの気がしたんだよね」と聞くと素直に頷く。「もう他の学校に行けばいいと思っているんでしょ!!」マークスが叫ぶ。でもちゃんと手を挙げて叫ぶ。決めるのは自分だよ、私たちではないよ。それにそんなこと思っていないよ。ハルも何度も手を挙げる。悲しい人がいると僕もsad, てらこやはtake careしてみんながhappyなところ。「大きい声でごめん・」マークスが小さい声で。場の雰囲気が一気に変わる。「マークスが仲間だと思っている人?」わたしが聞く。みんなが手を挙げる。見て! マークス! 「僕も切れる自分がいやなんだ・」こどもたち同士で進んだ話。私はただ交通整理だけ。前なら気まずい雰囲気だけで終わっていたはず。けど今は伝え合っているみんな。3月だ。3月だ。

日	月	火	水	木	金	土
3月	2	優月9歳♪ 3	鼓ヶ浦 〇4	5	翔馬8歳♪ 6 16:00 完全下校	7
8	9	蒨生7歳♪ 10	〇11	12	13	おひさま14 ミーティング
おひさま15 ミーティング 百人一首 比治山杯	16	17 しずかな時間	もちつき 18	19	春分の日 20 第8回 旅立ちの会	予備日 21 おひさま ミーティング
22	23	春樹8歳♪ 24	あかり9歳♪ 25 1~5年生 「大きくなったね ♪」の会	春休み ~4月7日 26	27 おうちえん 旅立ちの会	28

○今月のおむすびの日 緑色 4日(水) 11日(水)

*青字...誕生日♪

◆♪*...◆♪*...◆♪*...◆♪*...

スタッフと「おひさまミーティング」

◆♪*...◆♪*...◆♪*...◆♪*...

日にち: 3月14日(土)・15日(日)
時間: 1家庭, 20~30分程度
参加スタッフ: あっつん, きく, しょうた
ふっくん, ももちゃん, みらい, まあみん
(日時によってスタッフの変更あり)
*掲示板に貼ってある表に, 希望の日時を
記入してください。(メールや口頭も可)
~記入期間 3月5日(木)~10日(火)~

こどもたちはこれからの未来をつくる種。それぞれのおうちに、
てらこやという場に、その大事な種がまかれました。
わたしたち大人はおひさま。種にはなくてはならない存在。
種がいきいきと育つことをぼかぼかとあたたく見守ります。
てらこやでの様子, おうちでの様子, これからのこと,
今, 気になっていること, 新たな気づき, 発見したこと等々,
自慢話も大歓迎!! 目の前にあるわたしたちの大切な種,
そしてともに生きる仲間であるこどもたちのこと, お話しましょ♪

◆♪*...◆♪*...◆♪*...◆♪*...◆ きく's メッセージ 世界に一つだけの花 ◆♪*...◆♪*...◆♪*...◆♪*...

梅の花が咲き始め、もうすぐ春が訪れようとしている。そんな朝にひとつひとつの歌詞を噛み締めながら歌を歌う自分がそこにいることに気づいた。「No.1にならなくてもいい。もともと特別なonly 1」6年生に向けて、地球子舎のみんなに向けて、そして自分自身に向けて、歌っているからだろう。みんなまで歌っている2月の歌は「世界にひとつだけの花」だ。

この歌を歌いながら自分の人生をふりかえる。いつだって僕は必要以上に他者と比べて、評価を気にしていた。周りから評価されることで自分を安心させていた。自分をおしこころして周りに合わせてばかりだった。1位になるのが凄くてそれだけが良いと思っていて、張り合いばかりの競争の世界にいた。でも自分は1位にはなれないし、追いつけない。あれもできない、これもできないと自分にマイナスのレッテルを貼っていく。気付いたら自己犠牲を繰り返していた。そこに「自分」という種に目を向けないで外の世界にばかり目を向けていたに違いない。そしてないものばかりを追っている人生を送っていたことに気づいた。

僕は地球子舎に来て本当に良かった。地球子舎での日々を紡いでいく中で自分自身もありのままになっていくことを実感していく。すべきでなく、こう在りたいと。そして手放すことで自由になっていく。自分の中にもうあることに気づいていく。そして自分になっていく。地球子舎はまさしく自分を生きる学校だろう。

子どもたちにも、自分が自分でいていいんだ。そんな種(心の在り方)を持って歩いてくれたら嬉しい。改めて歌の最後の歌詞を送りたい。「そうさ僕らは世界に一つだけの花。ひとりひとり違う種を持つ。その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい。小さい花や大きな花。ひとつとして同じものはないから。No.1にならなくてもいい。もともと特別なonly 1」

旅立ちを間近に控えた6年生。もちろん比べたり、評価されることもあるだろう。でも大丈夫。もうそこにある。どんな場所に行っても、自分という大事な種を育てていき、いつか素敵なお花が咲きますように。さあ別れと出会いの季節がまた今年もやってくる。